

令和2年度 福岡県立少年自然の家「玄海の家」主催事業 実績報告

1 子どもの体験活動推進事業

No.	事業名	実施期日	対象	参加人数	実践報告～こんなことをしました～
1	「体験のおもしろさ」運動推進事業 思い出サマーフェスタ	8/23(日)	小学校4年生 ～ 中学校3年生	48	「スノードームづくり、海水浴・ポディーボード」 午前中は夏の思い出に残る工作として、スノードームづくり、午後からは海水浴とポディーボードの海活動を実施した。 スノードームづくりでは、子ども達が海でハンティングした貝殻などを使い、集中して自分だけの作品を作り上げていた。海活動では、今年初めて海に入るという子どもが多く、みんな気持ちよさそうに泳いだり、ポディーボードを楽しむ姿が見られた。また、海浜清掃の際にゴミが沢山落ちていた事に気づけたり、皆で活動していく中で新しい友達ができ嬉しかったという声もあり満足度が高かった。 
2	子どもボランティア サークル 「タイミング」	第1回 9/6(日)	小学校4年生 ～ 中学校3年生	—	※台風のため中止
		第2回 9/20(日)		34	テーマ「海・川のために」 第1回が中止となり、初めて顔を合わせた34人の子どもたち。「はじめの集い」では、子どもボランティアサークル「タイミング」の趣旨を確認し、各回のテーマを紹介した。 「アイスブレイク・仲間づくり」では、GRIPレクを通して、子どもたちの緊張がほぐれていくのと同時に班で協力して活動するという土台を築くことができた。 「釣川調査隊」では、むなかた水と緑の会 会長の福島 敏満 氏より、釣川的环境についてお話いただいた。「漂着ゴミの7割が川から流れついたもの」、「マイクロプラスチックゴミが世界中で問題になっている」という問題を目の当たりにし、子どもたちには、「きれいな海を守りたい」、「自分たちにできることは何か」という思いが芽生えていた。
		第3回 10/18(日)		30	テーマ「海・川のために」 第2回で学習したことや考えたことをもってたくさんの方に知ってもらえるように、漂着物アートを作成した。 釣川河口から「玄海の家」前に広がる海浜を清掃し、大小たくさんゴミを拾った。拾った漂着ゴミはオレンジビックにちなんだ5色に分け、それぞれウミガメのシールエイトを描いたキャンパスに貼り付けていった。完成したアートは、目にした人に漂着ゴミ問題について考えてもらえるような作品になっており、「海の道むなかた館」や「福津市コミュニティフェスタ」にも展示された。 
		第4回 2/21(日) ※2/7から 変更		30	テーマ「松林のために」 「玄海の家」の活動プログラム「スコアオリエンテーリング」の活動エリアを5つに分け、それぞれの班で協力し、松林の清掃や林道の整備を行った。この日の最後に行った「わたしたちのタイミング」では、「自分たちで考え・決めて・行動する」という目標をもち、自分たちで出来るボランティアを考え、実行した。「バス通路の砂かき」、「スコアオリエンテーリングのポスト修繕」、「施設内清掃」など、それぞれ考えたボランティアに一生懸命取り組むことができた。 アンケートでは、シリーズを通して9割以上の子どもが「海・川や松林、仲間のために活動することができた」と回答した。また、今後も地域のボランティア活動に参加してみたいという声も多く聞かれた。
3	Moving on プロジェクト Family チャレンジDay	第1回 9/13(日)	県内小、中学校 の児童・生徒と その家族	12家族 40人	「玄海カヌー体験」 「玄海の家」の海の自然を生かしてカヌー体験を実施したが、当日は、高波により安全面を考慮してポディーボードに変更となった。しかし、午前中は室内にてカヌーの操舵方法や安全なカヌーの乗り方、ライフジャケットの装着の仕方などを実物に触れながら学習した。残念ながら海でカヌーに乗ることはできなかったが、カヌーに興味をもってもらうことができた。 午後からのポディーボードでは、高波の中での海活動を初めて体験して、海の怖さを味わいながらも家族で支え合いながら波に乗る楽しさを実感することができた。 [IKRIによる「生きる力」の変容] 事前:50.7→事後:55.1(↑4.4P) 
		第2回 9/27(日)		11家族 33人	「漂流物サウンドアート&自然物アート体験」 海岸の砂や漂着物、石、貝がら、木片、松ぼっくり等を使って造形物を作製する体験を実施した。海水を使って砂を固めたり、飾り付ける材料を集めたり、アイデアを出し合ったりして家族で協力しながら作品を作り上げていた。面白い作品がたくさん出来上がった。 風が強く肌寒かったが、どの家族も楽しく活動できたようで満足度は高かった。 [IKRIによる「生きる力」の変容] 事前:51.2→事後:55.5(↑4.3P) 
		第3回 10/11(日)		12家族 34人	「玄海の海水de塩づくり体験」 自分で汲んだ海水を煮出して塩をつくる体験を実施した。500mlの海水をじっくり煮出して、少しずつ塩ができていく様子を見る参加者の眼差しが印象的だった。昼休みにも再度塩づくりに挑戦する姿もあった。午後には、その塩を使った「塩バターパン」づくりを実施した。「おいしい」と出来上がったパンを全て食べる子どもの姿もあり、満足度が高かった。 [IKRIによる「生きる力」の変容] 事前:47.2→事後:52.8(↑5.6P) 
		第4回 10/25(日)		12家族 45人	「火おこし体験・野外炊飯」 「玄海の家」で定番の野外炊飯でのカレーづくりを実施した。ファイヤースターターを使っでの火おこし体験は、全員が初めての体験で何度もチャレンジしながら薪に火をつける姿が見られた。野外炊飯のカレーづくりでは、適度な難しさが子どもの頑張りにつながったとの感想もあり、子どもが率先して活動に取り組む姿に成長を実感できたと保護者の満足度も高かった。 [IKRIによる「生きる力」の変容] 事前:41.4→事後:52.3(↑10.9P) 
		第5回 11/1(日)		7家族 22人	「親子のき・ず・なチャレンジ」 屋内屋外で合計10種目のアクティビティを親子で協力し課題解決を図る活動を実施した。 屋内5種目(1円玉立てチャレンジ、豆をはこべ、ペットボトルローリング、ポッチャ、わなげDEピンゴ)屋外5種目(ボールダリッジ、スラックライン、ディスクゴルフ、玄海ツムツム、ビーチボールチャレンジ) 普段室内で過ごすことが多くなり体を動かす機会が減る中、支えたり声を掛け合ったりして、楽しそうに協力する姿が見られた。 [IKRIによる「生きる力」の変容]事前:42.5→事後:60.4(↑17.9P) 

No.	事業名	実施期日	対象	参加人数	実践報告～こんなことをしました～
4	Moving on プロジェクト Family チャレンジDay 2nd	第1回 12/6(日)	県内小、中学校 の児童・生徒と その家族	12家族 46名	「ピザ作り&スコアオリエンテーリング体験」 ピザを生地から作る体験を実施した。生地を作る過程では、材料の分量について声をかけ合いながら活動していた。また、生地にトッピングを盛り付ける際には、協力して切った材料や持参した材料を楽しそうに盛り付ける姿が見られた。焼きあがったピザを美味しく食べる姿が印象的だった。午後からは、松林(もしくは館内)の中からポストを探す活動を実施した。自然に親しみながら、達成感も味わえたようだ。 [IKRIによる「生きる力」の変容] 事前:48.4 → 事後:55.1(↑6.8P)
		第2回 12/20(日)		10家族 33名	「クリスマスフォトスタンド作り」 クリスマスの思い出として、通常のフォトスタンドにクリスマスの飾りやデザインを取り入れたクラフト活動を行った。参加者は、まつぼっくりやどんぐり、自分たちで拾ってきた材料にスプレーやマジックで色塗りをして、組み合わせながら思い思いの作品作りで熱中している姿が印象的だった。また、保護者の感想には「我が子が、何も手伝うことなく、すべて一人でデザインして、グルーガンも使いこなしていたので成長を感じた。」と喜びを得ることができていた。 [IKRIによる「生きる力」の変容] 事前:44.9 → 事後:48.9(↑4.0P)
		第3回 1/17(日) ※緊急事態宣言発令により半日開催		3家族 12名	「ニューススポーツ体験」 全6種目(ピンボール、スカットボール、RDチャレンジ、シャッフルボード、ポッチャ、カロリングJr.)の各ニューススポーツそれぞれに対戦型のルールと達成型のルールを設定し体験を実施した。対戦型のルールでは、相手に勝つための作戦を考えたり、勝った時に喜び合ったりする姿が見られた。達成型のルールでは、目標達成のために何度も挑戦したり、励まし合ったりする姿が見られた。 [IKRIによる「生きる力」の変容] 事前:15.4 → 事後:16.6(↑1.2P)
		第4回 1/24(日) ※緊急事態宣言発令により半日開催		11家族 41名	「野外炊飯・火おこし体験」 ファイヤースターターを使っての火おこし体験と野外炊飯でカレーライスづくりを実施した。火おこし体験では、火がつかなくても何度もあきらめずに挑戦する姿が見られた。カレーライスづくりでは、薪を割るときに家族で支えあったり力を合わせたりして協力する場面など、家族で一つの目標に向かって楽しみながら取り組む様子が印象的だった。 [IKRIによる「生きる力」の変容] 事前:42.3 → 事後:45.1(↑2.8P)
		第5回 2/11(日) ※緊急事態宣言発令により半日開催		9家族 35名	「親子でき・ず・なチャレンジ体験」 家族でコミュニケーションを取ったり、支え合ったりしないと課題を解決できないアクティビティ全7種目を設定し開催した。言葉や体を使って、自分の思いや考えを家族に伝えようとする姿や、課題解決の難易度が高いアクティビティにも励まし合いながら挑戦する姿が見られた。さらに、どのアクティビティにおいても、課題を解決できた時に喜び合う家族の姿が印象的だった。 [IKRIによる「生きる力」の変容] 事前:44.3 → 事後:50.6(↑6.3P)
		第6回 2/28(日) ※緊急事態宣言発令により半日開催		4家族 10名	「ひな祭りメモスタンド作り」 季節の行事である「ひな祭り」をテーマに、メモスタンド作りを実施した。ラッカースプレーをしたりのこぎりを使用したりと、普段はできない体験を積極的に挑戦する姿が印象的だった。作品を作る過程で、親子でアイデアを話し合う場面や、作業を支え一緒に協力して取り組む姿が見られた。オリジナルの作品を作ろうと子どもも大人も試行錯誤し、同じテーマから様々な個性あふれる作品が生み出された。 [IKRIによる「生きる力」の変容] 事前:50.5 → 事後:57.8(↑7.3P)

2 地域連携事業

No.	事業名	実施期日	対象	参加人数	実践報告～こんなことをしました～
5	玄海Thanks Day Genkai Open Garden	11/23 (月・祝)	幼児から 高齢者	51	例年、館内集合型イベントとして実施していたが、今年度は主に「玄海の家」周辺の自然と野外施設を生かしたイベントに変更して開催した。 自然クラフト体験、テント体験、火おこし・焚火体験、遊びリンピック体験、スコアオリエンテーリング体験などを用意し、来場者に提供した。感染症の影響もあり、来場者は少なかったが、参加者の笑顔から楽しんでいただけたことが窺えた。
6	ムナカタ 常若フェスティバル	10/3(土)・ 4(日)	幼児から 高齢者	282	宗像市と「道の駅むなかた」をはじめとする国道495号線沿いの事業者連携事業に参加して、道の駅の芝生広場にブース出展を行った。 自然クラフト体験と玄海周辺の林を生かした「謎解きWalkig」を2コース作り、来場された方に体験活動を提供した。子どもたちはもちろん、おとなにも参加していただき、日頃めつたにできない体験に満足していただいた。

3 指導者養成事業

No.	事業名	実施期日	対象	参加人数	実践報告～こんなことをしました～
7	プレイヤー研修 スキルアップ講座	2/20(土)	過去のPL研修受講者 PL研修に関心のある方	16	「With コロナ時代の体験活動」 下関市深坂自然の森所長 井上 桂 氏を講師に、講義と演習を行った。講義は「これからの体験活動と指導者の役割」と題し、講師の実践や経験からお話いただいた。コロナ禍において宿泊体験や自然体験活動を行う際のプログラムアレンジについてご指導いただいた。演習では、コロナ版KYTシートを用いた演習や、野外炊飯を行う際の感染症対策について参加者と一緒考えていった。初のオンライン研修となったが、概ね好評だった。

